

「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果について

《基本的な考え方》

本調査については、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」と文部科学省の目的にあります。これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されと考えております。

- 子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲を高め、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。
- 学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。

《調査結果の取り扱い》

今年度も全国学力・学習状況調査の結果と分析を提供いたします。

- ◇ 本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。
- ◇ 学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

- 学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。
- 学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。
- 調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

概要

学習指導要領の内容で、知識・技能及び、思考力・判断力・表現力を問うものに対して、平均正答率は大阪府及び全国の水準を上回る結果になった。

特に成果が見られた問題例

設問¹の一、「かいしん」を漢字に変換するものは、全国的に正答率が低く、ニュースにも取り上げられ、国語力の低下を憂いていたが、本校では若干、正答率が上回っていた。設問⁴の一、手紙の下書きから、誤って使われている漢字を見付けて修正する問題も、大阪府及び全国の水準をはるかに上回る。普段の授業で、地道に、語彙を豊かにすることを意識させた結果であると思われる。

特に課題が見られた問題例

設問¹の二・三・四は美術展ちらしの作成更新であるが、正答率は大阪府及び全国の水準を若干、下回っている。実用国語、というか学んだことを、実地に活かす力をつけさせる必要がある。

概要

学習指導要領の内容で、知識・技能及び、思考力・判断力・表現力を問うものに対して、平均正答率は大阪府及び全国の水準を上回る結果になった。

特に成果が見られた問題例

学習指導要領の領域である、A 数と式 C 関数 D データの活用の正答率は、全国をはるかに上回る結果になった。生徒自身が、普段から問題に積極的に取り組み、多くの問題に触れることで、基礎的な知識を定着させることができているからだと思われる。

特に課題が見られた問題例

設問 6(2)や 9(3)などの説明問題や、証明問題に関しては、正答率が全国水準より下回っている結果になっている。授業内で、説明や証明問題に対して、力をつけさせていく必要がある。また、設問 9(1)のような、意見や考え方を聞いて、新たに何かを考えるということも苦手なのかもしれない。授業で考えや意見の交流す

概要

知識・技能を問う問題については大阪府および全国の水準を大きく上回っている。一方で、身につけた知識・技能を日常の現象と関連づけて分析・解釈することに課題が見られた。平均正答率は府平均と同程度、問題の難易度等を加味した IRT スコアは全国平均をやや下回る結果となった。

特に成果が見られた問題例

①(1)の電圧・電流と抵抗や熱量に関する知識・技能、①(5)の元素を記号で表す問題、②(2)の資料や情報の信頼性についての知識 など、学習の基盤となることがらがどの分野においても身につけている。普段の学習において基礎から丁寧に繰り返し取り組んでいる成果である。

特に課題が見られた問題例

①(3)の地層に関する知識・技能と関連付けて分析・解釈する問題、⑨(2)の気圧の知識が概念として身につけているかを問う問題に課題が見られた。知識・技能を概念として身につける手助けとし

※今年度、中学校理科において１人１台学習者用端末を使用し、IRT 方式（国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されているテスト理論）を導入して実施されました。全国の実施日時により、人によって違う問題が出題され、公開問題 10 問と非公開問題 16 問が出題されています。生徒個人への結果は「IRT バンド」という 5 段階で示されます。3 が基準のバンドとなり、5 が最も高いバンドとなります。

学習状況調査の概要

概要

アンケートの結果から、本校の生徒は、地域とつながっている生徒が多く、そのことが視野を広げる好機になっていることがうかがえる。同時に家庭での学習時間を、きちんと確保できている生徒も多いことがわかった。しかし、新聞や本をほとんど読まない生徒が多い。読解力をつけるには不可欠の活動なので、現状より一層活字に触れさせることは、喫緊の課題である。

特に成果が見られたアンケート項目例

「生活の中で、自然の中で遊ぶこと、自然観察をすることがある」の項目では府・全国を若干上回っている。また「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり一緒に遊んでもらったりすることがあるか」といった項目の回答から、本校の生徒は普段から地域に見守られていることがわかる。ひいては「地域や社会をよくしたい」という発想につながり、落ち着いた生活環境が、本校生徒の学力向上につながっていると考えられる。

特に課題が見られたアンケート項目例

タブレットの使用率は 78%と、府・全国の平均を 3 倍ほど上回っているにもかかわらず、「自分でタブレットを使って情報を整理することができているか」、の回答は 9.8%となっており、府・全国の半分以下の水準である。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の回答も府・全国の半分である。「読書は好きか」の回答は府・全国を下回り、「新聞を読んでいる」にいたっては 0 %である。日常、身の回りからどれだけの情報を得て、自分の発想や思考をひろげていくか、についての根幹が弱くなっている一因かと思われる。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

学校では継続して、言語活動の充実を教育目標の一つに据えて取り組んできました。シンキングツールを駆使し、思考の育成を図る授業を展開しております。課題に対して論理的に考える場面を作り、ペアワークやグループワークを取り入れて、自分の考えを発表する場面を設けることで、表現力や説明力、コミュニケーション力の向上を図っています。

今回の調査にも、文章で説明をする問題がありました。それらの問題に対し、「最後まで解答しようと努力した」生徒は、全国的に高い正解率をあげる結果が出ていました。一方、それについて本校生徒の回答は、61.0%で、全国平均を4%下回る結果となりました。

今後も続けて言語活動の充実に向けて取り組み、表現力や説明力のさらなる向上を図るとともに、学力の向上に繋げていきます。

生徒のみなさんに考えてほしいこと

アンケート結果から、「新聞を読む」と答えた生徒が、0%ということが気になります。いま皆さんが取り組んでいる学習の目的は、「社会に出たときに必要となる知識や思考力・判断力などを養うこと」にあります。せっかく学習しても、「みなさんが生きる社会」で起こっていることに全く関心がないのであれば「何のために勉強するのか」ということになります。

そこで、「ネットニュースを見ているから大丈夫」という人がいるかもしれません。しかし、そこには大きな問題点が2つあります。1つ目は「ネットニュースは、検索履歴をもとに、その人が興味を引くものばかり配信される」傾向があること。2つ目は「ネットニュースには、発信元がわからないものが多く含まれており、事実かどうかは、自分自身で検証しなければならない」ことです。これらの問題点をふまえていなければ、「世の中を知ったつもりになる」だけで、「世の中を理解している」ことにはなりません。日々の学習と、やがて皆さんが出ていく社会とはつながっています。広く世の中のことを知り、学んだ知識を生かせる大人になりましょう。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

「毎日朝食を食べる」「就寝・起床時刻は決まっている」の項目は、ほぼ全員があてはまる回答になりました。基本的な生活習慣を身につけることは、子どもの「心の安定」や「学力向上」につながっています。日頃からの献身的な見守りが、この現状になっていることに感謝いたします。

一方、分析結果で、低い項目がいくつかあります。その中でも「新聞を読んでいるか」という項目は0%です。「家にどれくらいの本があるか」の項目は、「500冊以上」という回答も0%です。(本校の回答で最も多かったのは、11～25冊です)この項目の回答は、全国・府の水準も微々たるものですが、前者は2%、後者は3%を超えています。

教育環境として、形式的なものですが、まず蔵書を充実させることは不可欠です。昨今PC・タブレットが普及し、電子図書への移行もみられます。しかし、今後も大学入試等の出題には、新聞の社説やコラムからのものが、まだまだ続くものと思われます。お子さまが手に取れるかたちで、ご家庭に本や新聞があれば読解力の向上につながります。どうぞご協力お願いします。